

# まほろば



2011.3  
第116号

## 「知り合うことは、助けえること」—北東北国立病院医療研究会が発足—

このたび、「北東北国立病院医療研究会」が発足しました。これは、患者さまや一般市民の皆さんに直接関係することではありませんが、病院職員がより良い医療のあり方を考える場がまた一つできた、ということで、この研究会を通して、いずれ皆さんにも、よい影響がもたらされるのではないかと思っています。

本研究会は、当院と同じく国立病院機構に所属する青森病院、八戸病院、あきた病院、盛岡病院の5病院の職員によって構成されています。そしてそのねらいは、それぞれの病院の職員が、日頃行っている診療や研究、医療改善の取組みなどについて発表し合い、個々の課題に対しては、積極的なアドバイスや意見を交し合おう、共通の課題に対しては、お互いに連携して取り組もう、ということです。そのためには、まずは職員が、このような場を使って、お互いに知り合う必要があります。「知り合うことは、助けえること」だからです。

さてこのたび、本研究会の発足と第1回研究会の

開催を準備していく、早速ですが「知り合うことは、助けえること」を実感する出来事がありました。それは、会場でのポスター展示に必要なパネルがなくて困っていたら、青森病院から、手持ちのパネルをいくつか会場まで運んでくれるとの申出があつたことです。うれしい限りです。

困ったら、話してみる、わからなかったら、聞いてみる。この姿勢を基本にして、本研究会を進めていきたいと思います。本研究会が大いに発展していくことを願っています。必ず、連携した取組がいくつか生まれるはずです。今、目の前にいる患者さんにより良い医療を提供したい、というのは、われわれ職員皆の気持ちなのですから。

臨床研究部長：泉井 亮

## 暖かな光に照らされて—第34回弘前城雪燈籠まつり・弘前雪明かり—

今年も2月10日(木)から13日(日)の4日間、弘前公園(国指定史跡「弘前城跡」)を会場に「弘前城雪灯籠まつり」が開催されました。

35回目に当たる今年は弘前城築城400年の年です。



今年初お目見えの「津軽錦絵大回廊」(昨年夏のねぶたに使用された錦絵を利用した色鮮やかな回廊)を抜け、メイン会場の四の丸に辿り着くと、白一色の優美な大雪像「弘前城」がお出迎え。細部に渡り見事な出来栄えでした。400年祭のマストットキャラクター「たか丸くん」

の雪像前では、写真を撮る順番を待つ列も見られました。

もうひとつのイベント「弘前雪明かり」では、吉野町緑地公園の「A to Z Memorial Dog」をはじめ、公園内のあちこちに市民の手で作られた雪の犬が、暖かなキャンドルの光とイルミ



ネーションでライトアップされました。また、今年はサーカス小屋を模した丸テントが張られ、その前では、日替わりで弘前大学の大道芸サークルやアカペラコンサート、インストゥルメンタルコンサートが開催されました。寒い中出演者の方々も大変だなあ、と思いつつ、素晴らしい公演内容に感動しました。(中でも、子供達には大道芸サークルのバルーンアートが大人気でしたね。)

寒さに負けず出掛けたれば、普段とは違った



「弘前」を必ず発見できるはず。四季折々、実に魅力的な街だと改めて思いました。



入院係：工藤 真淑

## 市民講座2月『脳卒中の画像診断』



脳卒中は脳の血管がつまる(脳梗塞)、破裂する(脳出血、くも膜下出血)などして脳の機能障害を起こす疾患です。脳卒中の60%以上が脳梗塞、35%程度が脳出血、日本の脳卒中患者数は約140万人、年間約25万人が発症し、死亡者数は13万人を超え、死亡原因の第3位となっています。高齢者の増加、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の増加により2020年には患者数は300万人を超えると推定されています。

脳梗塞の臨床病型はアテローム血栓性脳梗塞、塞栓性脳梗塞(多くは心原性)、ラクナ梗塞に分けられ、それぞれ発症後の治療法が異なり、早期に病型を診断する必要があります。以前は脳梗塞の神経学的な予後を大きく改善する有効な治療法はありませんでしたが、現在は発症から3時間以内であれば、血栓溶解療法が有効な場合もあり、少しでも早く診断し、適切な治療を開始することが予後に大きく影響するようになっています。

脳出血を含めた急性期脳卒中では問診・病歴聴取、診察、一般臨床検査と併せてCT、MRIなどの画像診断が行われ、早期に病型診断が行われます。CTとMRIは撮像原理が全く異なる装置で、それぞれの長所、短所を知り、短時間で診断することは有効な治療を実施する上で重要です。

CTは出血病変の検出には非常に優れた装置ですが、超急性期から急性期脳梗塞巣の検出はMRIに及びま

せん。しかし、CTでも間接的に閉塞血管の血栓の検出などができる場合があります。臨床的に超急性期脳梗塞が強く疑われる場合、血栓溶解療法を実施する上ではCT検査で脳梗塞巣を示す明らかな低濃度域(早期CTサイン)が無いことを確認して治療を行う事が推奨されています。MRIの拡散強調画像は発症から3時間以内の超急性期脳梗塞の検出に優れており、MRIでは閉塞血管も同定できます。脳梗塞病変の確認が必要な場合はCTよりもMRIを先に行う方が診断に要する時間が少なくて済みます。しかし、MRIは検査時間の短さではCTに及ばず、また意識障害がある場合は検査中に動く事が多く、検査が難しい事があります。MRIではくも膜下出血、脳出血もCTと同じ程度に検出できる撮像法もあります。

脳卒中の最も大きな危険因子は高血圧症ですが、喫煙も大きな危険因子です。高血圧症は必ずしも治療が有効でない事もありますが、禁煙は確実に脳卒中を減らし、5年間の禁煙で脳卒中への影響はほぼ無くなるといわれています。脳卒中を起こした場合の予後の改善には画像診断も大切ですが、最も大切なことは脳卒中の予防です。



放射線科医長：佐々木 幸雄

## 豆まき



2月3日 風の子保育園園児たちが、それぞれ思い思いに製作した鬼のお面をかぶり、病院内管理課で豆まきを行いました。突然赤鬼が現れるとき初めて見る鬼に園児たちは立ち止まりたり、しりごみしたり。

病院長はじめ、職員の心強いエールに励まされ、「鬼は外！福は内！」と、勇気を出して豆を投げ、鬼を退治しました。

その後、保育園に戻り「節分の由来」について「病気や災難を追い払う」という、日本の伝統行事であり、心の中の悪い鬼を豆まきして追い出し、今年一年元気に過ごせますようにと、両親の心の願いが込められているんだよ」と、絵本や話をうなづいて聞いていました。話を聞き、「鬼をやっつけるぞ！」と、ますます意欲に燃える園児たちと、今度はチラシを丸めて豆ボール製作。力を

込めて固くしたり、大きくしたりと、皆一生懸命作っていました。

青鬼・赤鬼ゲームも楽しみ「おにはそと～♪」と、歌っていると…「こんにちは！」と、病院内で退治したはずの赤鬼が保育園に！園児たちは内緒にしていましたので、皆逃げたり、しがみついて泣いたり大慌て。その中で、声をはりあげて「鬼は外！！」と豆ボールを投げた園児たちのおかげで、鬼はこっそり逃げていきました。

「きっと赤鬼さんも、みんなと一緒に遊びたかったんだよ」と、伝えると、園児たちは玄関まで行き、「今度は一緒に遊ぼうね」と叫びましたが、赤鬼の姿は見えませんでした。

きっと、風の子保育園の皆が健康でいられるように、悪い鬼を追い払いに来てくれたのかもしれないですね。

今年も園児の笑顔と元気な豆まきパワーで、皆さんに幸せな春を感じてもらえたなら、嬉しいです。

風の子保育園 園長：諏訪 栄子

## 【シリーズ 医療安全のとりくみ②】

## 薬剤科における医療安全の取り組み

私たち薬剤科は、患者様の薬物療法が効果的で安全・安心に実施できるように日々から取り組んでおります。

薬剤科内ではルールを作り、調剤過誤などが発生しないように十分注意しながら業務にあたっております。そのルールのひとつに、「ダブルチェック」があり、お薬を調剤した薬剤師とは異なる別の薬剤師が最終監査(お薬が正しいか、取り揃えた量が正しいか、医師が処方した量は適正かなど)をしています。この最終監査で、稀にお薬の間違いや数の間違いが発見されることがあります。正しいお薬を取り替えた後に

患者さまへお渡ししています。

薬剤科は、これまででも調剤過誤がないように取り組んでまいりましたが、今年度はより強化するため、この最終監査で発見された間違いについて、どんなお薬についての間違いが多いのかなどの情報を収集し、薬剤科内の職員でその情報を共有し注意喚起とともに、必要に応じて対策(お薬の棚の移動、採用銘柄の変更など)を実施し、患者様の安全により一層貢献できるように努力いたします。

薬剤科 リスクマネージャー：西村 康人

# 誤飲、喘息の対応、「小児救急：救急患者の初期対応、第2回」



教育セミナー「小児救急：救急患者の初期対応」の第2回が開講されました。今回(2月28日)は、三上珠希医師による「小児における胃洗浄について」と杉本和彦医長による「小児気管支喘息の治療について」と題した講義でした。

三上先生のお話は、200年前から行われていたという小児における胃洗浄の歴史から始まりました。どのような場合に胃洗浄が必要で、胃洗浄はどのように

やるのか、そのためには、どのような準備が必要なのか。特に「たばこ」を飲み込んでしまった小児への対処について、胃洗浄に実際に使われる胃チューブやそれに接続する注射器も用意されての解説でした。杉本先生は、小児喘息の病態とそれぞれの病態に対応した治療が実際にどのように行われているか、を説明されました。種類と用量を決めていく、まさに絶妙なさじ加減の世界をみせていただきました。

今回の教育セミナーで当院職員は、現場すぐに役に立つ手技、介助法について勉強できました。企画された野村由美子先生に感謝します。やっぱり、勉強することは楽しい！その向こうに、患者さまやご家族の喜ぶ顔が見えるから。

臨床研究部長：泉井 亮

## 旬の食材～たけのこ（筍、竹の子、笋）



たけのこはイネ科の植物で竹の地下茎から出る若芽のことと、一般に用いられるのは孟宗竹（モウソウチク）ですがその他に、真竹（マダケ）、淡竹（ハチク）、根曲り竹（ネマガリダケ）、寒山竹（カンサンチク）等があります。たけのこは採ってから時間かたつほどアクが強くなるため、できるだけ早く米ぬか（とぎ汁でもよい）と赤唐辛子で茹でてアクを抜きます。ところで、孟宗竹の北限は盛岡市あたりといわれており東北・北海道では小型で細く、アクが少なくきめ細やかな根曲り竹（千島筍）や、それより細い笹竹もこの近辺では人気です。これらは山村のスタミナ源食品として春に

は欠かせない山菜料理で、天ぷら、生姜醤油やマヨネーズで食べるお浸し、わかめなどと汁の実に、たけのこご飯、豚肉や鶏肉との煮物、生のまま皮ごと火にあぶってみそをつけて食べるなどいろいろおいしい食べ方があります。なんと言っても採りたてが一番ですが、生のものが手に入らない場合は、水煮や缶詰もあります。ちなみに、栄養管理室でも5月には筑前煮や鳴門煮などの筍料理を予定しております。



栄養管理室長：四釜 諒子

## 【シリーズ医療安全のとりくみ⑩】

## 西3病棟における医療安全の取り組み

皆さん、「5S活動」って、ご存知ですか？

5S活動とは、ものや情報、ヒトを対象に、整理・整頓・清掃・清潔・しつけを全員参加で徹底する活動で、仕事の効率向上、ミス・事故防止、スペースの有効活用などを実現するための基盤整備を目的としたものです。

西3病棟では、今年度リンク係とタイアップし5S活動の強化に取り組んでいます。写真に掲載していますように各種医療機器のコード類が、床に付かないように整理整頓し、清潔で安全な病室環境に整えていくように取り組んでいます。今後は記録室、処置室など計画的に5S活動を展開し、スタッフ全員の5S活動の取り組みを通してチームワークの向上を目指していきます。

患者の皆様、また病院職員の皆さん、探検隊になつて職員に気軽に声かけてみてください。「ここ、ちょっと整頓できていないようだけど？」「通行の

じゃまになるところに物がありますよ？」等々。

皆様からのご指摘がさらに5S推進の力になります。ご協力よろしくお願いします。



西3病棟 リスクマネージャー：山田 佳子

# 外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2011年3月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子	山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子
消化器・ 血液内科		太田健 吉谷元 佐藤年信	週毎に交替で担当 ①吉谷／松木 ②松木／太田 ③太田／吉谷	太田健 松木明彦 佐藤年信	太田健 吉谷元	— 松木明彦 佐藤年信
小児科		三上珠希 杉本和彦 —	野村由美子 佐藤工 —	杉本和彦 三上珠希 佐藤次生	野村由美子 佐藤工 佐藤次生	野村由美子 杉本和彦 —
外科		田澤俊幸 三上勝也	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 田澤俊幸	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛 大鹿周佐 田中直	柿崎寛 佐々木規博	秋元博之 大鹿周佐	秋元博之 大鹿周佐 能見修也	柿崎寛 秋元博之 能見修也
午後		—	—	—	—	柿崎寛
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行 佐藤正憲	佐藤正憲 熊野高行	佐藤正憲 熊野高行	熊野高行 佐藤正憲	熊野高行 佐藤正憲
午後		●予約	●手術／検査	●予約	●手術／検査	●予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		真鍋麻美 柞木田礼子	片桐清一 小笠原智香	真鍋麻美 小笠原智香	●妊娠検診 (一般外来休診)	片桐清一 柞木田礼子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 二井一則	黒田令子 二井一則	●手術 (一般外来休診)	黒田令子 二井一則	黒田令子 二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	—
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制／第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

大吉を お守りに持ち 手術台

(はむりん)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

### お知らせ

#### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。

皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：臨床研究部長 泉井亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>